開拓と整備の螺旋階段を猛ダッシュするために

こんにちは、高本です。
今回は人生における開拓と整備について考えます。

前回はエントロピーの観点から、好きなことという無限のエネルギー源と当たり前にできることという触媒を駆使して、活性化エネルギーの山を越えておもろいルートを歩いていくって話をしました。

実はこの道をもう一歩踏み込んで見てみると、開拓と整備の繰り返しになっています。正確には繰り返しながら発展していくので螺旋なわけですが、そんな話を考えていきます。

が、長くなりそうだったので、整備のパートについては再来週配信することにします！

それと、自分にとっての無限のエネルギーをよく分かってるという前提で進んでたんですが、ここについても一旦掘り下げてみようということで、後半はエネルギーの源泉の在りかを考えていきます。

それでは早速！

自分らしさのその前に

まず開拓について。そもそも好きでやりたいことを探求していくわけだから、究極的には誰かが作った道を歩きはしません。自分で切り開くことになります。だから開拓です。そのベースには興味・関心・好奇心などがあって、それがその人らしさの根源です。さらに自分の能力を使って無理なく進めるルートを見つけていくという話でした。これは使い古された表現をするなら、まさに「自分らしく生きる」です。

この自分らしさとか個性は近年すごく重要視されてるし、そこでつまずく人も多いわけですね。アイデンティティや方向性が分からないと。でもなぜそんなに大事なのか。ちょっと立ち止まって考えてみると、それが一番無理のない自然な状態だからですよね。他人の目や社会の期待に抑え込まれることなく、清々しく過ごせているということです。

でもじゃあ自分らしさの前に、**人間らしくその強みや優位性を発揮できているのか**という話です。自分であることを大切にするんだったら、その前に人間という種族として生まれてきたことについても考えておくべきです。だって人間として生きているのに、**人間だけが持つ武器を使わなければしんどくなるに決まってる**からです。縛りプレイです。飛ばない鳩も走らないチーターも何してんねんと言われるだけです。

というわけで、ここから考えておくに越したことはありません。哲学や脳科学など、いろんな角度から考えられますが、今回は**ネオテニー**の観点から考えてみます。

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

ネオテニーというのは、**子供に見られる身体的特徴を残したまま成体になること**を言います。ウーパールーパーが有名ですね。人間もこれに当たると言われています。人間は子供と大人でほとんど姿が変わりません。チンパンジーの場合は、子供から大人になるにつれて下顎が伸びていきます。だからなんやねんという話なんですが、これには大きな意味があります。

通常、動物は子供から大人になるときに体の一部が極端に発達します。牙が生えるとか、爪が鋭くなるとか。これを特殊化と言います。じゃあこれは何のためか。その環境に適応するためです。**今いる環境で生存していくために最適化する**わけです。でも人間は子供の姿のまま大人になります。ここに人間の特異性があります。

特殊化が起きておらず、先送りになっているということです。環境適応のための体の著しい発達が見られない。これは何を意味するのか。

環境の変化に柔軟に対応できるということです。

高い適応能力があるから、好奇心のままに新しい環境に飛び込んでも対応できる。むしろそこに優位性があるということです。だから**専門を絞るんじゃなくて、特殊化するんじゃなくて、その時々で興味ある方に流れていける**わけです。別に途中で道が変わってもいいし、あっちこっち行ってもいい。

で、そうすると**「逸脱」**が付いて回ります。今ある道を外れる機会がいくらでもあるわけです。小さいのから大きいのまで。そんな逸脱を繰り返しながら、目の前のことを探求していく。これがまさに開拓ですよね。というわけで次はこの逸脱について考えます。

その脳の判断は信用に足るのか？

好きなことを探求し、人間らしく自分らしい道を開拓していく中で、脇にもっと面白そうなことを発見することがあります。そこで大きく舵を切って飛び込んでいくことに人間の優位性があって、それもひっくるめての開拓ということでした。

もっと言えば、そうやって曲線的に進んでいくから多くの景色を楽しめるわけです。腸の柔毛がグネグネしてるおかげで表面積が大きくなるように。それによって吸収効率が上がるように。

でもじゃあそんな簡単に移っていけるのかと。他人と同じルートから分かれていく時もそうです。分かれ道に来て、そのまま行けば周りと一緒にいられます。**でも右からめっちゃおもろそうな匂いがプンプンしてる。**そんなときどうするのか。

そこで、主人公感とかエフィカシーの話をよくしてるわけですよね。自分の能力を自分がどれだけ評価できているか。根拠のない自信の類です。今までにどれだけ決断してきたか、ということでもあるんですが、でもこんな難しく考えなくてもよくて。実は素晴らしい選択の方法があるわけです。

それが**「神視点」**です。自分を漫画の作者と思って、ただ単純にこう問いかければいいんです。

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

「どっちに行けばこいつの物語は面白くなるかな」

自分で考えると、意味のない思考が邪魔してきて判断が鈍ります。環境が変わるのは生物にとってはリスクしかないので、考えれば考えるほど否定の結論しか出てきません。だから**自分の外から意思決定をする**。

本心ではそっちに行きたいと思ってるのだから。別になんでもかんでも変なことをしようってわけではありません。

自分の中にある何かが反応した、すばらしい瞬間です。頭で考えて引き起こせることじゃないわけです。メリットがいくらあっても腹の底から乗ってこないことなんか、いくらでもあります。でもそうじゃない。そっちに行けばとてつもなく面白いことが起こりそうな、こっからの人生が大きく変わっていきそうな、そんな予感。そんな時に、何回も判断を間違えてきた自分の頭を信用していいのかってことですよね。

そんな機会は今この瞬間にしかなくて、同じ分かれ道は二度とない。**また別のＹ字路に来ても、あのとき出会うはずだった花の美しさ、木々の力強さ、鳥の雄大さはそこにはないし、沼にはまって笑えてきたり満点の夜空に吸い込まれそうになったりもできないわけです。**

考えに考え抜くことで、あとから正しかったと思える決定を下せるのか。だから「神視点」が便利です。

そもそも**物語はいつも逸脱から始まります。**僕たちは自分の人生をモブキャラではなく主人公として生きていてそうやって死んでいくわけですが、これは一つの物語です。アニメや漫画で考えても、これらはいつも逸脱から始まります。

デスノートでもマリオでもそうです。夜神月は昨日そこになかったデスノートを拾いました。マリオはクッパにさらわれたピーチ姫を助けに行くことを決めました。これは大きな物語の始まりですが、そのあとも何か起きる前には必ず逸脱があります。日常系のアニメですら、誰かが前回はやっていなかった行動をしてるはずです。それによって今回のエピソードが成り立ってるはずです。つまり**逸脱なしでは本当に何も起こらない**ということです。

クソおもんないアニメとして一生が終わってしまいます。どこで逸脱するかという話です。

で、その来たるべき逸脱に備えて、普段からの逸脱を心掛けるわけですね。一世一代のバンジージャンプに備えて普段から訓練しておきます。これのいいところは、逸脱は逸脱を引き起こすので、大チャンスを引き寄せる確率が上がります。

特に大きな分かれ目でなくても、結局逸脱から始まるわけです。いつもと違う人と話した。いつもと違う道で帰った。いつもと違う、、。こういうところからイベントが生まれてきます。まずそれ自体がおもろい。昨日の時点では見られなかった光景です。そして普段から逸脱を繰り返してるから、大事な時に余裕で**「そっちいったるで～、だっておもろそうやん」**ってなれるわけですね。

で、じゃあ周りの登場人物はどうかというと、**彼らも彼らの物語の主人公として生きています。**

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

デスノートでは、夜神総一郎は自分の物語では主人公のはずです。誰かに言われてキラの捜査をしてるわけじゃないですからね。そこにエネルギーの源泉があって、そういう物語に生きてるわけです。

進撃の巨人でも主人公のエレンと並行して、同じくミカサやエルミンの中では主人公としての物語が動いてます。ミカサはエレンを守りたいし、エルミンは壁の外の世界を見たい。そこに情熱を燃やして葛藤を抱え、困難を乗り越えながら生きているわけです。**そしてそんなキャラ達が交わるから面白くなるわけです。エレンの指示の通りに動く、意思のないキャラがいくら集まってもなんにも面白くないんです。**エレンのやる気もなくなってくるでしょう。

だからエネルギーの源泉を知ってそこに素直に動いていくために、神視点という切り札を持っておきたいということです。そして**日常的な逸脱でサブプロットを動かし、大きな物語へと続けていきたい**ということです。

結局、無限のエネルギー源はどこにあるのか？

ここまで人間らしさと、それを踏まえて好きでやりたいこと探求していく、という話をしましたが、**そもそも「好きなこと」って何なのか**という話です。確固たるものがあるという前提で進んできてたんですが、改めて考えてみます。

正直別に「好きなことやれ、やりたいことやれ、得意なことやれ」ってどこでも言われてますよね。ペラい本からネット記事から、誰でもどこでも言ってます。でも「はいじゃあそうします」とはなれないわけです。これには僕がすごく勘違いしていたことで、なおかつそれを教えてくれる人がいないから仕方ないやんとも思うことがありまして。

好きなことに名前がついているという盛大な勘違い

これですねぇ。「好き、やりたい、興味」というプラスの言葉のせいで、英語とかプログラミングとかスポーツとか、分かりやすく名前がついてるもので考えてしまいがちです。

実際は英語と言っても、人によって好きなポイントは違ってます。英語圏の文化に触れられる、外国人とコミュニケーションをとれる、英語という言語の世界を感じられる、とかいくらでもあります。

それを漠然と「英語」が好きかどうかで考えるから、「いや別にそこまでではないな」ってなってしまうわけです。エネルギーの源泉にまつわる「好き」は、**そんなはっきり名前がついてるものじゃない**んですよね。

「こんなことをこんな具合にこんなこと考えながらするのが好き」ぐらいにふわっとしてて、でも画はちゃんと浮かんでるような、そんなものじゃないかと思うわけです。

だから好きとかやりたいとか興味あるとかゴールでも夢でも目標でも何でもいいですけど、分かりやすく一つのジャンルとして確立してるようなものにはならないはずです。ぼこぼこ

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

エネルギーが湧いてくるような、そんな泉に名前を付けるときに「英語」とかにはならないんですよね。

実際にはなってもいいんですけどw、でも「じゃあ英語の何？」っていうのが絶対ある。そこはほかの好きなことにも共通してるはずで、それが一番知りたい部分ということです。

子供時代の体験というゆるぎない事実

じゃあそんなものがどこにあるのか。これも子供のころに原点があると考えるのが分かりやすいです。その時に抱いた**世界への印象、感動、違和感。**この純度の高い感性で捉えたものに立ち返るのが早いわけです。

今の自分がひねり出そうとすると余計なことを考えて、浮かんできたものを速攻否定してしまうからです。だから**「昔はこれに心奪われていた」というゆるぎない事実**から考えていきます。

大人になるにつれて、学校で集団で過ごす中で、極端な自分の興味を抑えていきがちです。流行りに合わせたり、全体になじませたりしていくものです。そもそも義務教育自体が、与えられたものを受け取るという構造です。定期的なテストで到達度が計られるので仕方ないわけですが、その期間ごとに与えられたことをこなすようになります。授業でも宿題でも。

でもどこかのタイミングで、それに違和感を覚えて**「これでいいのか？」**ってなるわけです。これもまた逸脱の機会ですね。そして作戦を模索していると「やりたいことをやるのがいいよ」って、そこで急に言われるわけです。そんな頭の使い方をしてきてないので、分かるわけがありません。感性が鈍りに鈍ってます。だから困り果てるわけです。

じゃあ子供時代はどうだったかと。**遡ればさかのぼるほど、自由に好き放題ふるまえていた**のではないかと思います。結局そこに大ヒントがあるわけです。それこそがあなたのエネルギーの源泉に続く森の入口なわけです。

誰かが子供の時から考えていたことを後追いするのか？

例えば『野生の思考』の著者として知られるレヴィストロースは、未開社会の家族形態を当時流行っていた、数学の群論を使って説明しました。雑に言うと、「ある社会の家族形態は、基本となる１つの構造に、何かしらの変換を施したものだ」という主張です。彼は子供のころ、植物学や地質学に関心がありました。どちらも構造に着目していく学問です。**つまり、昔から構造が気になるような少年でした。**

その後構造主義と呼ばれる思考体系になっていきますが、結局この子供の時の世界認識がもとになってるわけです。ということは、仮に僕が今この分野に興味を持って学んだとして、第一人者以上の情熱をもって仕事するのは難しいということです。だってその人はもう最初から、**世界をそうやって見てしまう癖やそんな原体験があるからです。**

それをずっと気にしてきた中で、たまたまどこかのタイミングで論文として形になった。そういうことだと思うんですね。つまり、**世界の構造を捉えようとすることでエネルギーが湧**

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

いてくる人が、それをやめなかった結果として、構造主義と呼ばれるものができていった。ただそれだけだと思うんですね。最初から構造主義というものを確立してやろうとは思ってないはずです。

だからその後で出来上がったものを学問として学んで、「なるほど」ってなる人とは全然違いますよね。興味の対象は近くても、レヴィストロースと同じ子供時代のバックボーンはないわけです。

ということは、自分のエネルギーの源泉に忠実であろうとすると、どこかで確実に枝分かれします。それも逸脱ですけど、逆に言えばレヴィストロースが開拓した道を歩き続けても、それはその人にとってのおもろいルートではないということですよね。**彼が一生を費やして追い求めた「それ」に、他の人がエネルギーを注ぎ続けることはできないわけです。**

あなたはどんな少年・少女だったのか？

じゃあこの人が特別なのかというと、それもそんなわけないですよね。みんなそれぞれ、「勝手にこういうところにばかり注意が向いてしまう」というのがあって、それを**自分のユニークな部分として育てていけるか**です。

だからこの人は人類学者や民俗学者というカテゴリーですが、自分の興味のままに進んでいった結果、たまたまそう呼ばれるようになったということだと思うんですね。その結果スポーツだったり物理だったり、料理でも映画監督でも何をしていてもよくて、でもその根源にあるはずのもの。それがエネルギーの源泉というわけです。

例えば、僕は子供の時の原体験として「宇宙すごっ」っていう感動があります。端っこはどうなってるのか？始まりは？外側は？ブラックホールの中は？というのがすごい気になってました。マヤ文明とか古代遺跡とか深海生物にも興味があったり、絶滅動物の本もよく読んでました。天才てれびくんが終わった後のサーベルタイガーとか恐竜のドキュメンタリーも好きでした。僕たちが**今いるところから、空間的にも時間的にも遠く離れた世界でどんなことが起こっているのか**、それが気になるわけです。

小学生の時友達が捕まえたバッタを見て、バッタからは人間はどう見えてるのか、と思ったこともありました。人間は町で暮らしてる限り脅威になる生き物はいないですが、虫や鳥からすれば自分より明らかにでかいやつが近くにいます。そんなことを考え出すと、**これだけのテクノロジーを生み出し、ビルを建て、空も移動できるほどの知能を持った人間として生まれてきたのって、いかつい奇跡なんじゃないか**と思ってくるわけです。どんな確率なんっていう。

これは僕が大学でやっていたこととも関係あるんですが、アリは２次元の世界に生きてます。綱渡りを考えると、人間は前後の１方向しか動けないですが、アリのサイズだとそれに加えて円周の方向にも動けます。だから２次元です。ミクロの世界では僕たちが認識できない次元があり得るわけです。こういうことを考えていくと、素粒子は１０次元の世界にあることになります。今の技術では検証は出来ませんが、理論としては破綻してない話です。

こういうのを勉強していくと、**今見えてる世界だけに生きるのはもったいないな、**とかも思ってくるわけですね。自分の体は３次元の物理空間にありますけど、受け入れるパラダイム次第では、今見てるモニターも素粒子の集まりです。

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

だから僕は「情報空間が～」「場が～」「エネルギー循環が～」って言い方をよくしてますが、意外と適当に喋ってるわけではなくて、**物理的には見えてないけど、でもそこにあると思って大切に扱っていくと、もっとおもろく世界を過ごせそうなパラダイムを取り入れていく**ってことも含めて、いちいちエネルギーとか言ってるわけですね。

で、物理学はこの世界の自然法則を解明する学問なんですが、それだけでは世界は理解できないと思ってます。だからいろんなことを総動員して、僕たちの背後にある法則とか道理を追求していきたいわけです。

さらに言えば、この**興味のベクトルが内側に向いたときに**「自分は何のために生まれてきたのか」「どう生きるべきか」って気になったりしてきました。これは簡単に分かるものじゃないし、そもそも考えるべきでもないって言う人もいるかもしれません。でも僕にとっては、こういうのも全部ひっくるめて開拓ということになります。

大学で物理を学んで、南米に行って、こうやって文章を書いてるのも全部、ツルハシをもって薄暗いところでカツカツやってるというわけです。厳密には文章書くのは整備として考えたいのですが、これはまた次回やります。

で、あなたも含めてみんなが自分のことをよく知って、エネルギーの源泉にアクセスし主人公として思う存分開拓していけば、もっと面白い世界になっていきます。

そして各々が自分を起点にぐりんぐりんエネルギーを循環させていけば、地球が流れるプールみたいになって、新たな出会いや創造が巻き起こっていくということです。

エネルギーの源泉を掘り起こす

で、そんなエネルギーの源泉を考えるにはどうすればいいかというと、好きなことや過去に興味を持ったことを、２００個ぐらい一気に書き出してみるのがおすすめです。ブレインダンプですね。１つの要素から広げるんじゃなくて、２００個に共通することを見つけにいきます。どんな抽象的な行為や要素でエネルギーが湧いてくるのか見ていきます。

そして「これや！」ってのが見つかれば、それは**完全に自分だけの言葉**になります。別によくある言い回しだったとしても、それが含む情報は他の人と同じではないですよね。**含まれるビット数が全然違うわけです、ビット数が！**

あとはこれもちょっとしたコツですけど、好きなことって言うと趣味・特技的な物を考えてしまいがちですけど、**エネルギーを費やしたこと**って思えば分かりやすいです。特に**お金、時間、感情を費やしたもの**と考えると、違った角度の回答が出てきやすい。

例えば僕が適当に挙げてみると、古代遺跡、宇宙、ドッチボール、キャンプ、音楽、読書とかになります。でもエネルギーを費やしたことって考えると、周りの人より自分の人生みたいな部分をよく考えてたな、と思うわけです。

逆にこの観点から他の要素を見てみると、さっきも言ったんですが、これは自分の内側に興味が向いてるだけで、宇宙や古代遺跡が気になるのと同じだなってなります。で、ドッチボールやキャンプは物理空間を遊ぶわけですが、宇宙とかは情報空間を遊ぶ感覚なので、結

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

局まとめれば「遊ぶ」って一言に尽きます。なんとなくこういうのがエネルギーの源泉としてあるので、この辺は多分一生出来るんですね。出来るというか勝手にやってるというか。

でも**実際は子供の時からやってた**わけです。アニマルプラネットずっと見てたり、社会の授業中に資料集ずっと読んでたり、習い事の行事で毎年キャンプ行ってたり。ちゃんとやってるんですよね、気づいてないだけで。最近になって１つの概念にまとめて言語化できたというだけで。

あなたにも整理される機会がなかっただけで、そういうものがあるんだと思います。だからなんかフワッとしてるなって場合は、ちょっと時間とってブレインダンプしたり、物事をどんな風に見る癖があるかなとか、考えてみるのがいいかもしれません。

エネルギーの源泉と分離しないゴールと情報発信

これは本題ではないんですが、ついでなのでちょっとだけ触れておくと、人生のゴール的なのを設定するときもここからイメージを膨らませていくわけです。漠然と「自由に」「幸せに」ではなくて、**エネルギーの源泉と分離してない未来として**、どんな状態を実現したいのか、どうなれたら死ぬほどうれしいのか。そんな風に考えます。

で、その時は**現状の延長線の外側**を思い描くのがいいわけですね。というのは、なんとなく手の届きそうなものだと、考えや行動が大きく変わらなくていいという認識になって、想定内のところに収まってしまいます。

道筋が見えないところにひとまずの行き先を立てるから、間を埋めるために脳がフル回転してくれます。そうすると、今までスルーしていた情報に目が留まるようになったりします。今までなら断ってた誘いにも乗ってみようと思うかもしれないし、適当にマンガ読んでてもハッとすることが出てくるかもしれません。

このゴールとか目標も、いろんな人がいろんなこと言ってるので分かりにくいんですが、どの抽象度で見るかが大事です。テスト勉強の計画みたいに目標を立てたりするのは、短期的なタスクをこなすにはいいですが、人生レベルで考えるには適してないと思ってます。数値目標になりやすく、そうなると「やらないといけない」という義務の意識が出てきやすいです。

あと情報発信でもこのエネルギーの源泉をもとにするわけですね。これも勘違いしやすいところで**「野球が好きだから野球をテーマにしよう」じゃない**んですよね。エネルギー循環を爆裂に起こしていきたいわけなので、浅瀬でバシャバシャしてても仕方がないわけです。

別に野球で発信してももちろんいいんですけど、そのフォルダを解凍して展開した時に、**自分がこれまでエネルギーを費やしてきたり、一生そこを高めていきたかったり、悩んできたりしたような抽象的なテーマがでてくるのか**ってことですよね。

だから「好きなこと」っていうのも奥が深くて、というか奥が深いものとして先にちゃんと考えたほうが、後になって「好きって何？」「好きなことないけど」とか無駄に悩んだりしなくなります。

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.

今回は**「人生における開拓と整備」**の開拓の部分を考えてきました。自分の優位性の前に人間としての優位性を、ということでヒトのネオテニー性に着目してみると、特殊化が先延ばしになってるために環境の変化に強いということが分かりました。

そしてそんな特性を発揮していくとなると、逸脱が付いて回ります。ここでは神視点が非常に使い勝手がいいという話をしました。最後にエネルギーの源泉にアクセスする方法として、子供時代という原点に立ち返ることとブレインダンプの話をしました。

次回は、こうやって好き放題開拓した道を整えてエネルギー循環を起こしていく、ということを考えていきます。

質問や感想などあれば、また連絡ください。
それでは、ここまでお読みいただきありがとうございました！

高本

Copyright © 2024 高本 All Right Reserved.